

宣教の重荷を共に担う教会

コリントの信徒への手紙Ⅱ 一章 15 節

あなたがたのところにいて生活に困ったときも、私たちは誰にも負担をかけませんでした。マケドニアから来た兄弟が私の欠乏を補ってくれたからです。(9)

コリント教会は金銭に関して非常にうるさい教会で、パウロが諸教会から集めた献金を「奪い取った」(8)と非難していました。そのため、パウロは生活に窮しながらもコリント教会からは一切の謝礼を受け取りませんでした。受け取る権利がないというのではありません。パウロは別のところでは、働き人が報酬を受けるのは当然であると語っています(第一コリント九10、11)。にもかかわらず、パウロがコリント教会からの報酬を受けなかったのは、コリントの人々に負担をかけたくないと思ったからです。伝道者の生活を支えることは教会の当然の義務であるとは考えず、彼らは負担に感じていたのです。フィリピの教会は違いました。彼らは喜んでパウロの働きを支えました。神が御子を与えてくださったクリスマスの恵みが彼らを生かし、喜んで献げる者に変えてくださったからです。